

# Art in Hospital

患者と医療従事者に優しい病院環境をつくる

## 医療+ $\alpha$ で地域コミュニティーの核に ⑮森の里病院(神奈川県厚木市)



緑が配されたリハビリ施設「ジャングルドーム」

**緑** あふれるドーム型リハビリ施設、Tシャツにジーンズ姿のスタッフ、インド人によるランチ販売——。ここには、「冷たい」「陰鬱」といった病院特有のマイナスな雰囲気がなく、楽しげな気持ちにすらなってくる。

太田和年院長は「これまで病院は敷居の高い存在でしたが、当病院では地元の方々が病気でなくても気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを目指しています。世間話でもいい。コミュニケーションを通じて、患者さんのトータルライフをサポートしていきたい」と話す。これは予防医療の考えにもなっている。

受付では、医療コンシェルジュが患者のさまざまな相談に乗っているという。

太田氏は院長に就いて10年。この間、病院を身近に感じてもらうため、さまざまなアイデアを実現してきた。ざっと挙げてみよう。

待合室には誰でも自由に楽しめるCD試聴コーナーを設け、売店では手作りパンを販売。近くの社員がパンを買いに病院に来るといふ不思議な光景が見られる。受付のカウンターや病室のドアにはヨーロッパの街並みの写真が貼られている。外に目を向けると、地元の七沢温泉から提供して



病院施設らしからぬ「ジャングルドーム」の外観

制服はない。アメリカ製医療服にワッペンを付けた太田院長



毎月、新しいCDを聴ける試聴コーナー



地元の温泉を使った本格派のフットバス



企業などに置かれて痛んでしまった植物を再生し、希望があれば住民に配布している



ヨーロッパの街角の写真を貼った受付カウンター

もらっているフットバス(足湯)が設けられている。

ユニークなのは設備面だけではない。医師やスタッフは各人思い思いの服装をしている。「患者さんには白衣恐怖症、医師の側には白衣依存症がある。信頼関係が築ければ服装は関係ない」(太田院長)と制服を廃止。患者さんからは「話しやすい」、医師やスタッフからは「自分らしい格好ができて楽しい」と支持されているという。

同病院は2002年に医療機関としていち早くISO9001(品質マネジメントシステム)を取得。院長が整形外科医であることもあり、整形外科に強い

病院だ。かつて新興住宅地の住民だった地元の人たちも高齢化が進み、整形外科の需要も高まっている。それでも、なぜ病院を変え続けるのか。

「病院がきちんとした医療を提供するのは当たり前。そんなのは売りにならない。プラスアルファを提供したい」(太田院長)

9月には、「文化的な情報発信も大切」と、文化祭を行った。沖縄・宮古島の言葉で歌うシンガーや地元・厚木の三味線奏者などによるライブを開催。森の里病院は地域医療だけでなく、地域コミュニケーションの核としての存在感も増している。

# 病める人に分け隔てなく心までのケアを

## ⑩ 聖母病院 (東京都新宿区)



病院の外観。近くに大学と高齢者福祉施設もある

〈愛をもち、病める人を癒されたキリストになり、国籍、信仰、貧富を問わず、心の通う医療を提供して病める人々の身体的、精神的、社会的、霊的ニーズをみとす。〉

聖母病院は理念をそう定めている。東京西部から埼玉県に延びる西武新宿線。下落合の駅を降りると、「聖母坂通り」がなだらかな坂を描き、北へ延びている。この坂はかつて狸坂と呼ばれた。妊婦が歩いて上るさまが、おなかの大きなタヌキの姿を連想させたためだといわれている。

このエピソードが示す通り、「聖母病院といえば産科」の印象が一般には広く浸透している。現在、年間で1700件程度のお産を扱う。ピーク時は2500件から3000件近かったこともあった。

現在、3階を占める周産期の病棟の床には、音を考へてタイルカーペットを張った。ほかにも妊産婦や家族への細やかな心遣いが随所にある。

病院は1931年の開院後、本館は増改築を経て4階建てになっていた。2004年に完了した増改築工事を機に、余分な意匠を捨て3階建てに戻った。

今年4月には聖堂と検診センターが竣工。

聖堂の斬新なデザインは建築業界の話題をさらった。現在も取材が殺到している。旧聖堂を上回る音響のさへは夏の音楽会で確認できる。

検診センターは人間ドックからがん検診まで幅広く対応可能な施設、設備、人材をそろえている。

79年の歴史を経ているとあって、地域住民には完全に「自分たちの病院」として受け止められている。



聖堂。朝5時から夕方5時まで患者や家族、地域の人が訪れる



新棟1階の廊下。内装は本館の雰囲気に合わせている



新棟2階ナースステーション



新棟5階の食堂。職員のほか患者や家族も利用できる



新棟5階の講義室。ちょうど講習が行われていた



4床室。カーテンを引けば個室のように使える

時に厳しく、時に温かい言葉を掛けられるのも、そうした愛情故のこと。

職員のうちカトリックの信者は1%にも満たない。むしろ職員は理念に惹かれて集まってくる。理念にある〈霊的〉とは、心のケアを指す。

「ほかの病院と同じことをしていたのでは、聖母に意味はない。何でもいい、プラスアルファを実行するよう職員には求めています」

間野英子副院長の言葉に病院の歴史が投影される。開院当時は「国際聖母病院」として外国人医療に注力。その精神は今も受け継がれ、受付には外国人専用ブースが常設されている。

理念にうたわれる通り、病める人に分け隔てなく接してきた。時には公的医療機関や行政以上にパブリックな役割も負う。職員の数だけ存在する「プラスアルファ」はどこまでも豊かだ。